

“鎌倉楽しむ会”
“令和6年春本番”

金沢八景駅～朝夷奈切通し～

鎌倉への散策

- ◆ 開催日 : 令和6年5月18日(土)
- ◆ 集合場所 : 京急金沢八景駅改札口
- ◆ 集合時間 : 午前10時30分
- ◆ 解散時間 : 午後3時30分(鎌倉駅)
- ◆ 参加費 : 500円(資料代、保険料含む)
- ◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担

京急金沢八景駅 / 瀬戸神社 / 琵琶島神社
 / 上行寺東遺跡 / 上行寺 / 鼻欠地藏 / 朝夷奈切通し金沢区側入口 /
 / 朝夷奈切通し鎌倉街道側入り口・三郎の滝 / 梶原太刀洗水 /
 / 光触寺 / 大江広元邸跡の碑 / 大慈寺跡の碑 / 足利公方跡の碑 / 泉水橋
 / 鎌倉駅(解散)

1, 瀬戸神社



*元来、この地は入海の瀬戸(狭い海峡)で干満時に急流となり、海上交通の難所であったため、5～6世紀の頃から「海神」を祀っていたようです。

*この霊地に源頼朝が挙兵に際して戦勝を祈願して、伊豆三嶋明神(現:三嶋大社)を勧請したのが瀬戸神社の始まりです。

*その後、北条氏や鎌倉公方足利氏の崇敬を受け、徳川家康も慶長5年(1600)に自ら参拝し、百石の社領の朱印状を寄進しています。現在の社殿は、寛政12年(1800)に建立され、権現造りと呼ばれる様式です。

*創建は治承4年(1180)。御祭神は「大山祇神など11柱」。国指定文化財として、北条政子が寄進した舞楽面二面(陵王と抜頭)があります。

2, 琵琶島神社



*治承4年、源頼朝が三嶋明神を勧請し瀬戸神社を創建した時、夫人の北条政子が夫になって、日頃信仰する琵琶湖の「竹生島弁財天」を勧請して、瀬戸神社の海中に島を築いて創健したと伝えられています。

*御祭神は立ち姿なので「立身弁財天」、また、島の形が琵琶に似ているので「琵琶島弁財天」とも呼ばれています。

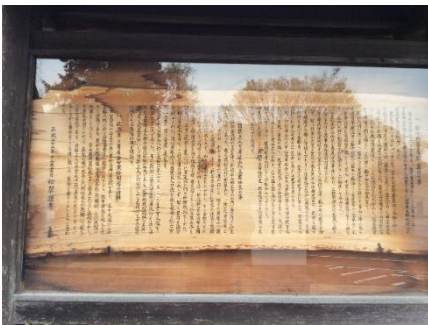
3, 上行寺東遺跡



- * 昭和 59年（1984）に鎌倉時代から室町時代にかけての横穴墓であるやぐら群がマンション建設の事前調査で発掘された。同遺跡はマンション建設のため、造形保存という形で移転・再生復元されて現在に至る。
- * 現在では、洲崎町にある龍華寺の前身で、源頼朝と文覚上人が文治年間（1185～1190）に六浦山中に創建した浄願寺であるという説が有力となっているが確実ではないという。

- * 頼朝と文覚上人が創建した浄願寺の跡とも考えられ、高さ 30m の丘陵に上段、中段の二つの平場と下部崖面から構成され、やぐら 43 基、の建物跡 6 基、五輪塔 400 塔、200 体にのぼる人骨や古銭、陶磁器などが出土している。五輪塔や阿弥陀仏を浮き彫りしたやぐらもある。やぐらは主に鎌倉時代に使われ、室町時代まで墓地として利用されていたことがうかがわれる。

4, 現：上行寺

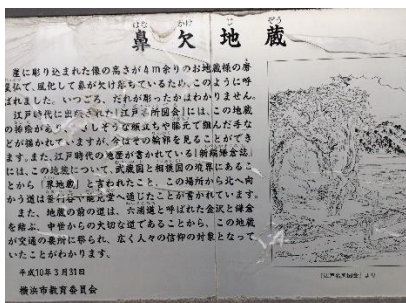


- * 鎌倉時代、千葉介胤の被官であった富木五郎胤経の祈願寺として、真言律宗の全勝寺があった。
- * 建長6年（1252）11月富木胤経は下総より鎌倉幕府に参勤の砌り、鎌倉にお戻りになる「日蓮聖人」と同船になり、船中問答を交わし富木は日蓮聖人に深く帰依し師壇の約を結んだ。
- * そして住持の普識法印に船中問答の顛末を語して、日蓮聖人と面奉された。普識法印は「仏法の真意は法華經にあり」の大義を悟り、法華經弘道の道場とされた。

* その後、一時的に寺勢は下って行ったが、北条氏の被官・荒尾城の城主・荒井平次郎光吉が、下総中山法華經寺の帰依を受け「日荷上人」となり「上行寺」と正式に命名した。

* 境内には、日荷上人が植えられたという樹齢600年の榎の木、船つぎ松などがあり、また、六浦称名寺の仁王尊像と身延山との伝説も書かれています。

5, 鼻欠地蔵



- * この地は昔、相模国鎌倉邸に属し、峠村と呼ばれ、武蔵の国との国境が2m先にあった。崖に彫り込まれた4mほどの高さがあるお地蔵様の摩崖仏はいつごろ誰が彫ったものか不明だが、風化して鼻が欠けているため「鼻欠地蔵」と呼ばれているが、その昔はこの地蔵があった場所が「相模国」と「武蔵国」の国境であったため「堺地蔵」とも呼ばれていたという。現在はさらに風化で原型がわからなくなっている。

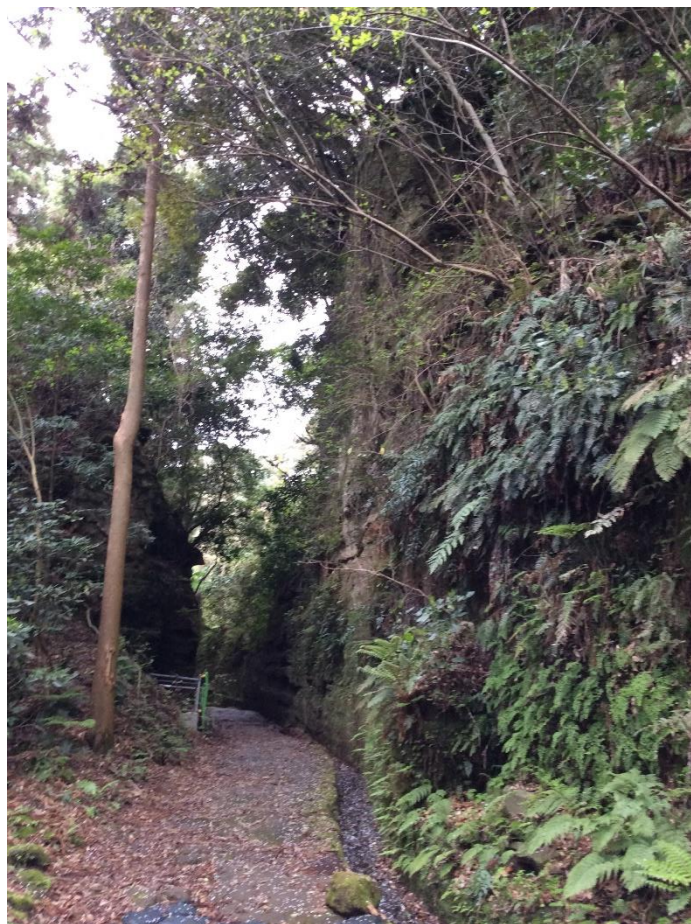
6, 朝夷奈切通し金沢区側入口



- * 鎌倉七切通しの一つで、三代執権・北条泰時により開かれた。塩の道とも呼ばれ、国の指定遺跡となっている。歩き抜ければ鎌倉市十二所へでていく。
- * 和田義盛の三男で豪勇で知られる「朝夷奈三郎義秀」が一晩で切り開いた伝承から、この名が付いた。

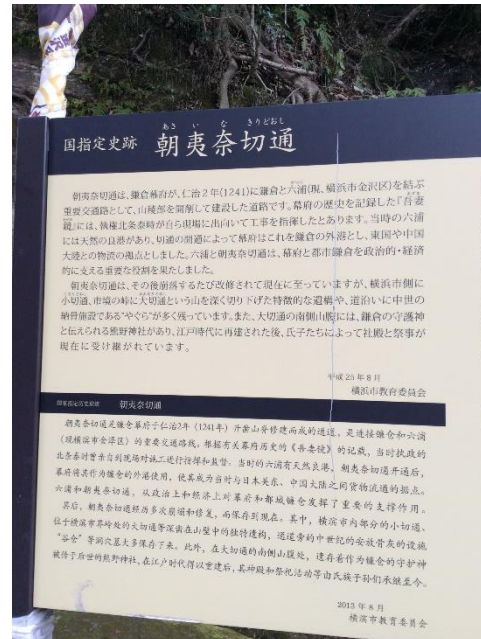
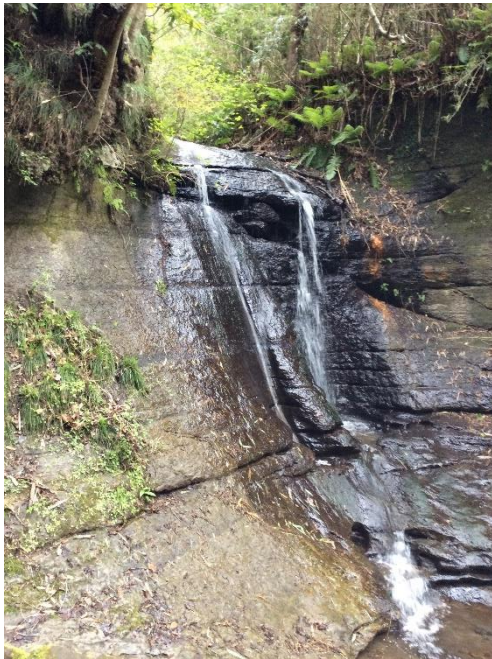


- * 鎌倉の鬼門除けに建立されたという「熊野神社」が切通しを守ってくれそうです。



朝夷奈切通しの中央部分

7、朝夷奈切通し鎌倉街道側入口／三郎の滝



- * 鎌倉市が定めた朝夷奈切通し鎌倉側入口は金沢区側からだとなりになる。
ここには、朝夷奈三郎にちなんだ小さな滝壺の「三郎の滝」がある。

8、梶原太刀洗水



- * 鎌倉5名水の一つですが、飲用はできない。小さいため見落としやすいが、鎌倉市によって「太刀洗水」の標示板が掲げられている。
- * 寿永2年（1183）に、源頼朝の命を受けた「梶原景時」が「上総之介広常」を討った後、この湧き水で血刀を洗ったとされている。

7、光触寺



- * 鎌倉楽しむ会の発足当初に訪れ、ご本堂見学を申込、参加者の皆様とご住職の有難いご法話と、本尊阿弥陀如来のお話、また、源実朝が建立したとされる「大慈寺」のお話をいただいた思い出深い「時宗」のお寺さんです。
- * 持仏の本尊・阿弥陀如来像は一メートル、仏師・運慶作と云われ、国の重要文化財に指定されている。脇侍観音は 60 センチで快慶作、勢至観音も同じ高さでこちらは湛慶作で、いずれも国の重要文化財に指定されている。
- * 創建は弘安元年（1278）本尊の中尊の阿弥陀如来像は“頬焼阿弥陀”として知られています。
- * 境内にはお供え物の「お塩」を嘗めると伝えられる“塩嘗地藏”が祀られています。

8、大江広元邸跡の碑



- * 元暦元年（1184）に源頼朝から鎌倉に招かれた大江広元は頼朝の側近となり、鎌倉幕府に開設された公文所（くもんじょ）が政所（まんどころしよ）となると、その初代の別当に任命された。
- * 頼朝の死後も幕府で中心的な役割を担い多大な功績を遺した。
- * 源頼朝は大江広元に「相模国毛利荘」を与えた。この後、子孫は「毛利」姓を名乗り、戦国安芸の毛利氏に繋がり、遂には中国地方最大の大大名へと飛躍した。

9、大慈寺跡の碑



- * 健保2年（1214）、三代将軍源実朝が建立した寺院です。勝長寿院の「大御堂」に対して「新御堂」とも呼ばれていた。
- * 同年7月27日には、我が国臨済宗の開祖の高僧・栄西禅師が呼ばれ、北条政子も参列し大供養が催され、正嘉元年（1257）には征夷大將軍宗尊親王の時には本堂・丈六堂・新阿弥陀堂・釈迦堂・三重の塔・鐘楼などに修理が加えられたとある。
- * 現在は碑のみしかなく大慈寺は残っていないが七堂伽藍を有する壮大な寺院であったという。

10. 足利公方跡の碑



- * 足利義兼（よしかね）が源頼朝が幕府を開いた時に、この場所に家を定めました。その後二百数十年間、この地に子孫が住みました。
- * 足利尊氏が権力を握り、京都に移った後に、その子の義詮（よしあきら）が室町幕府の二代将軍となって、京の都を治めました。
- * そして、義詮の弟の基氏（もとうじ）が関東管領（かんれい）となって、軍の指揮をこの家からとりました。
- * こうして、足利家は子孫に引き継がれました。子孫は京都にならって、公方（くぼう）と名のっておりました。
- * 享徳4年（1455）に公方成氏（しげうじ）は。上杉憲忠（のりただ）と仲たがいし、下総（茨城）の古河（こが）に移ったために、遂にここは永く廃墟となっていました。

完

- * 令和6年5月例会は「朝夷奈切通し」です。金沢八景駅から約8キロの道のりですが、少し朝夷奈切通しは健脚向きです。勿論小雨中止の所です。
- * ご自分の体調の状態とご都合を最優先として、ご参加をご検討いただければと思っています。よろしくお願い申し上げます。
- * 平成27年3月18日（水）の佳き日、東京駅丸の内北口から“鎌倉楽しむ会”は皆様のお力添えで出発進行しました。
- * その後、企画責任者として暗中模索の中、参加者の皆様に助けられ、教えていただきほんとうに楽しく一緒に散策できたことは大変な幸せを感じ、かつ責任者の身体の中には大きな財産となっております。
- * 鎌倉時代を含め、毎々のガイド資料を作成しながら、少しずつ石器・縄文・弥生・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・戦国・江戸時代と歴史のロマンの関連性も感ずるようになり、これも“鎌倉楽しむ会”の皆様と現地・現場を訪ねることによるお陰と感謝の念でいっぱいしております。
- * ご案内10年目を迎え、我儘な「鎌倉会」ですがよろしくお願いいたします。

企画責任者 清藤 孝